

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

本調査は、平成22年度に一般国道9号名和淀江道路の改築に伴い実施した周知の埋蔵文化財包蔵地(以下遺跡)の本発掘調査である。本発掘調査を実施した遺跡は松河原上奥田第2遺跡(大山町松河原)、下市前築地遺跡(大山町下市)である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県西部地域では、米子道路、名和淀江道路が自動車専用道路として一部供用されている。

このうち、大山町を通る名和淀江道路の計画地内及び隣接地には、多数の遺跡があり、建設に先立って計画地内の遺跡の有無・範囲・性格・内容等を確認する必要性が生じた。このため、平成2年度から大山町、名和町各教育委員会(いずれも当時)、平成19年度から大山町教育委員会によって、国庫補助事業として逐次試掘・確認調査を行った。

試掘・確認調査の結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、平成12年度から平成16年度にかけては、財団法人鳥取県教育文化財団が調査主体となり、安原溝尻遺跡など17箇所の遺跡の本発掘調査が行われた。また、平成17・18・20・21年度には鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、門前上屋敷遺跡など13箇所の遺跡の本発掘調査を行った。発掘調査終了後には各報告書が刊行されている。

平成22年度は小竹上鷹ノ尾遺跡3・4区及び2区の一部、松河原上奥田第2遺跡、下市前築地遺跡、



第1図 名和淀江道路関係遺跡位置図

第1章 調査の経緯

豊成叶林遺跡の一部が本発掘調査の対象となった。

参考文献

- 大山町教育委員会1990『大山町内遺跡発掘調査報告書 安原所在遺跡・平第2遺跡』大山町埋蔵文化財調査報告書10
名和町教育委員会2000『名和町内遺跡分布調査報告書』名和町埋蔵文化財発掘調査報告書第26集
名和町教育委員会2004『名和町内遺跡発掘調査報告書』名和町文化財調査報告書第33集
鳥取県埋蔵文化財センター 2010『小竹下宮尾遺跡 西坪岩屋谷遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書29

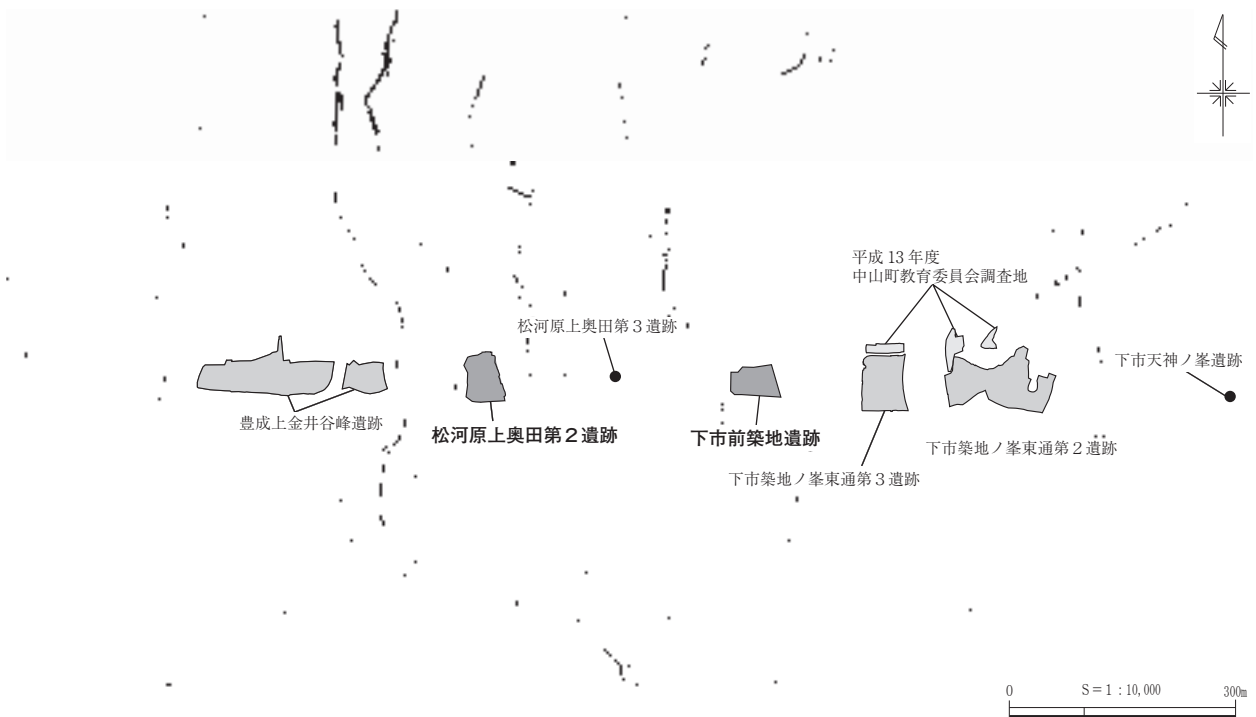
第2節 調査の方法と経過

1 調査区の名称と調査方法(第2図)

(1)松河原上奥田第2遺跡

調査前の状況は、町道をはさみ、東側が畑地、西側が山林であった。調査に先立ち、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採り、北端のD2(X: -54250m、Y: -71350m)、南端のD8(X: -54310m、Y: -71350m)などとなった。標高値は、国土交通省が設置した3級基準点H18-3-2の67.947mを使用した。

検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、簡易遣り方測量及び光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判により、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。



第2図 調査地の位置

(2) 下市前築地遺跡

調査前の状況は山林である。調査に先立ち、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北西杭名を採り、C3(X: -54280m、Y: -71020m)、E4(X: -54290m、Y: -71000m)などとなった。標高値は、国土交通省が設置した2級基準点H18-2-1の75.640mを使用した。

検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、簡易遣り方測量及び光波トランシットによる座標測量を行った。遺物包含層の遺物取上げについては、基本的に1つのグリッドを4分割した区画(北東: NE、南東: SE、南西: SW、北西: NW)ごとに行っている。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判により、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況及び調査後状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

2 調査の経過

(1) 松河原上奥田第2遺跡

調査は、平成22年1月15日から調査前地形測量を業者委託し、3月12日に調査前航空写真撮影を行った。4月12日から21日にかけて重機による表土剥ぎ作業を行い、5月13日に委託業者による方眼測量を行った。発掘作業員の稼働は4月28日から開始した。調査地の中央を南北に通る町道によって調査地を分け、東側を1区、西側を2区とした。調査は、おおよそ1区、町道下、2区の順に行った。

9月6日から発掘調査と並行して委託業者による調査後地形測量を実施し、9月10日をもって現地でのすべての作業を終了した。

調査の結果、縄文時代の落とし穴4基、古墳時代前期の竪穴住居跡3棟、奈良時代の製塩土器廃棄土坑1基等を検出した。調査対象面積は2,883㎡である。調査は濱本・木村が担当した。

(2) 下市前築地遺跡

調査は平成22年8月18日から調査前地形測量を行い、8月23日に調査前航空写真撮影を行った。8月30日から31日に重機による表土剥ぎ作業を行った後、9月7日から発掘作業員の稼働を開始し、12



写真1 松河原上奥田第2遺跡調査風景



写真2 下市前築地遺跡調査風景

第1章 調査の経緯

月15日まで検出・掘り下げを行った。この期間中、11月8・9日に重機によって無遺物層の除去作業を行っている。12月10日に調査後航空写真撮影を行い、12月24日までの調査後地形測量をもってすべての発掘調査にかかる作業を終了した。調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居跡1棟、縄文時代と推定される落とし穴4基等を検出した。12月11日には一般の方々を対象にした現地説明会を行っている。調査対象面積は2,187㎡である。調査は濱・八峠・木村・松田が担当した。

第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

鳥取県埋蔵文化財センター

所 長 久保 穰二郎
次 長 中尾 淳一（兼総務係長）
総 務 係
副 主 幹 福島 良
主 事 楠原 真衣
事 務 職 員 大丸真紀、岡村好美

発掘事業室

室 長 山根 雅美（兼調整係長）
調 整 係
発掘調査員 岩垣 命
事 務 職 員 太田垣聡美（4月～5月）、高橋恵美子（6月～10月）

調査担当（琴浦調査事務所）

副 主 幹 牧本 哲雄（総括責任者）
副 主 幹 濱 隆造（下市前築地遺跡調査担当責任者）
文化財主事 濱本 利幸（松河原上奥田第2遺跡調査担当責任者）、
八峠 興、門脇 隆志、中村 茂央
発掘調査員 木村 健明、松田 重治
事 務 職 員 山根美穂

調査日誌抄

松河原上奥田第2遺跡

1月15日 調査前地形測量開始
3月12日 調査前航空写真撮影
4月12日 1区重機による表土剥ぎ
～21日
4月28日 発掘作業員稼働開始
5月11日 2区重機による表土剥ぎ
7月20日 1区調査後地形測量開始
7月23日 1区完掘写真撮影
7月26日 2区調査開始
9月6日 2区調査後地形測量開始
9月10日 2区完掘写真撮影 調査終了

下市前築地遺跡

8月18日 調査前地形測量開始
8月23日 調査前航空写真撮影
8月30・31日 重機による表土剥ぎ
9月7日 発掘作業員稼働開始
11月8・9日 重機による無遺物層除去
12月10日 調査後航空写真撮影
12月11日 現地説明会開催
12月15日 掘り下げ作業終了
12月24日 調査後地形測量終了
調査終了